

## 日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.6

私ですが、昨年の政府によるポイント還元事業が始まつてから、キャッシュレス決済を利用する機会が増えました。当初はポイント獲得が目的で利用が増えたのですが、現金を扱う煩わしさから解放されてみると、これがなかなか快適です。同事業終了後の今でも、数日間は全く現金を使わないこともあります。といつても、私が利用するのは、QRコードであるキャッシュレス推進協議会が行つた調査に

私ですが、昨年の政府によるポイント還元事業が始まつてから、キャッシュレス決済を利用する機会が増えました。当初はポイント獲得が目的で利用が増えたのですが、現金を扱う煩わしさから解放されてみると、これがなかなか快適です。同事業終了後の今でも、数日間は全く現金を使わないこともあります。といつても、私が利用するのは、QRコードであるキャッシュレス推進協議会が行つた調査に

はなく、専ら従来からあるクレジットカードや電子マネー。これまでその気になればキャッシュレス決済はもっと利用可能でした。

今回の件で、コストをかけずにできることでも、何かきっかけがないと始める気にはならない、そのことに改めて気が付かされました。

世の中では、政府の旗振りや、感染症対策で人との接触となるべく避けるために、キャッシュレスの利用が一段と進んでいます。政府のポイント還元事業の補助金事務局であるキャッシュレス推進協議会が行つた調査に

よれば、対象者の5割前後の人人が同事業をきっかけにキャッシュレスを始めた、あるいはキャッシュレスの支払手段を増やしたとし、キャッシュレス利用者の8割前後の人人が、同事業終了後もキャッシュレスを利用したいと回答しました。

また、キャッシュレス利用者を対象としたある民間調査では、コロナ禍でこれまで現金払いしていた店舗の回答が、7割弱と上っています。ところで、読者の皆

### キャッシュレス化の進展と現金需要の増加

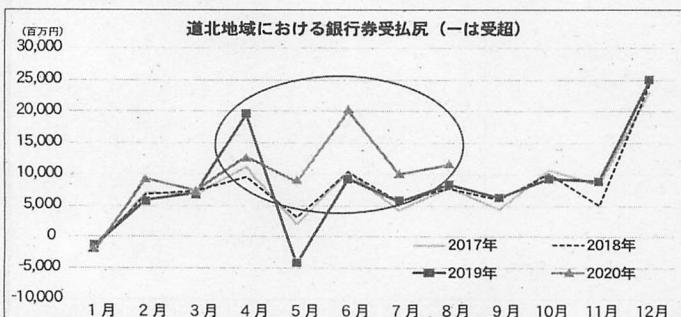
#### 現金需要の増加

様は、こうしたキャッシュレス化が進む一方で、現金であるお札の発行高が増えていることはご存知でしょうか。

お札は、正式には「日本銀行券」といいます。お札は、これまで現金需要で伸びていて、最近数年で前年比6%程度の伸びです。

旭川市内で、どれくらいの銀行券が出回っているか、数えることはできませんが、代わりに

年によって違いはありませんが、全国では年間数%ずつ増えていて、最近数年で前年比6%程度の伸びです。



(注)2019年は改元に伴う10連休があったため、連休前の4月に払超幅が拡大し、連休後の5月に受入超に転化

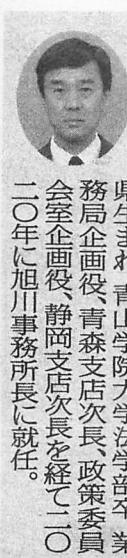
(出所)日本銀行旭川事務所

T M等への装填現金な

どが考えられます。しかし、ここにきて伸びを高めている要因は、新型コロナウィルス感染症への対応によるものと思われます。政府による10万円の特別給付金の支給により現金引き出しのほか、小売業者等からの現金預入が減少したことなどが考えられます。また、金融機関がこうした現金需要の増加を見越して、予備的に日銀からの現金払出を増やしているのか、も一時的なものなのか。

一方で、現金需要の高い伸びは、いつまで続くのでしょうか。コロナワクチンが開発され

ます。一方で、現金需要の高い伸びは、いつまで続くのでしょうか。コロナワクチンが開発されると、どのタイミングで金融機関から日銀への還流も一時的なものなのか。一時的なものだとすると、どのタイミングで金融機関から日銀への還流も一時的なものなのか。も一時的なものなのか。これまで続くのか、それとも一時的なものなのか。



【大賀健司(おおが・けんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。務局企画役、青森支店次長、政策委員会室企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。